「ココロ合せ♡チカラ合せ」
防災ネットワーク通信
あなたとご家族の生命を守る知見を備えましょう
2022（令和4）年９月15日／第49号

風早北部地域ふるさと協議会　編

災害で大怪我をしないために《シリーズその1》

～現状では市行政や市医師会に問題解決の兆し無し～

この夏の感染症拡大第七波では、これまで以上に救急搬送先が見つからずに、平時なら助かった命を幾つも救えない事案が各地で発生しました。この現象が、当風早北部地域でも、大規模災害時に十分に起こり得るのを皆さんはご存知ですか？柏市や市医師会はこうした実情を認知する中、長きにわたりゴールがなかなか見えない協議となっていること※に私ども地域住民は大変な危機感を抱いています。

※柏市防災安全課の説明では、本件を市医師会と協議中とのことながら、感染再拡大もあって今年８月末時点でも本件の解決に向けた動きは何一つ明らかにされていないのが実情です。

本件においては出口が見えず閉塞感が漂う中、当会では 2021 年秋口から市に対して「災害時に市民が大怪我をしない取組みを充実、強化することで、この医療関係者問題はある程度解消されるはずである。そちらに施策として舵を切るべき」と主張しています。これに対する市は今のところ沈黙を続けている状況です。

私ども防犯防災部は、こうした状況を打破していくため、今年度の防災活動における重点取組み事項として、防災に携わる住民代表者との関係会議を通じた協議を実施しています。

今回から標題のタイトルにてシリーズでこの問題を深く掘り下げ、住民の皆さんにお知らせし、併せて柏市行政への要望書（市への提言）の提出、これに対する市の回答などを開示して参ります。

先ずは本稿にて、大規模災害発生に際して柏市民に大きく影響するであろう大きな課題につき、改めてその内容をご案内します。

大きな課題その①

災害拠点病院や災害医療協力病院が当風早北部地域にはありません。それが意味するのは？

災害有事には、総合病院での集中的な患者や怪我人の治療対応やトリアージ（患者の症状程度に応じて治療の優先度が判断されること）作業が行われることから、医療従事者数確保のため、市内に点在する医師や看護師にこうした中核病院への

招集がかかります。よって、そのような病院の無い当風早北部地域には、**災害時には最悪医師や看護師が誰もいなくなる**ことを覚悟しなければなりません。災害発生直後は幹線道路が渋滞を回避するため、緊急車両優道路になり、マイカーでの病院搬送もほとんど期待できないことになります。手賀大橋が通行制限となり、我孫子市側の大きな病院にも短時間では行けなくなります。

平時では助かっていた命が、災害時に大怪我を負ったり重い病気に罹ると、不幸にして助からなくなる可能性が高くなることを改めて自覚し、災害時に怪我をしない・病気に罹らないために何をしたらいいかを、住民一人ひとりで考えましょう。

大きな課題その②

大きな災害が発生した直後に大きな怪我をしてしまう大半が高齢者です

今年６月に発生した最大震度６弱の能登半島地震では、以前も何度か大きな地震に遭っているにもかかわらず、十名弱の住民が大怪我で手当てを受けました。その多くは６５歳以上の高齢者でした。

要するに、どんなに災害に慣れていても、高齢者の怪我は避けられず、発災時にこうし方々が多く発生することで、**周りの家族を含め、避難行動や災害後の生活にも大きな障害に繋がります**。その意味では、出来るだけ高齢者が怪我をしない、病院の世話にはならないため、高齢者住民に寄り添える地域の支援が欠かせません。

大きな課題その③

行政が行っている家具転倒防止策は、社会福祉政策のみ。災害対策に主眼を置いた補助金制度ではありません

現在柏市では、社会福祉政策の一環として、身障者世帯につき家具の転倒防止策につき補助金の支給を条件付きで実施しています。千葉県内では、一部の自治体を除き、**高齢者向けの防災対策としての補助制度が整備されていません**。柏市はこうした他の自治体と横並びで、予算措置の考えを改める方向にはなく、私たちの真意をしっかり市長に伝え、改善を求めることが必要です。

《本シリーズは本年１１月以降に次号を予定しています》